

ブラウン・シェーバー7515の充電電池交換

そもその発端は「これオンリー」で使い続けてきた 7515 が4回も使うと、充電を要求する赤ランプが点滅するという事態になり、「流石にこれはおかしい」と気付いたことでした。

調べてみると、このシェーバーは 2000 年に購入し、2011 年に内刃&網刃を Amazon で購入して (約 5 千円) 交換した以外にメンテナンスはしていません。今回、島忠中尾店に充電電池の交換を頼めないか問い合わせしてみると、もう部品の供給期間を過ぎているので出来ないとのこと。

それでは自分でやるしかないと思いを固めた次第でした。

ネットで調べてみると、7515 そのものの充電電池交換記事は見つからなかったのですが、これより古い機種の記事があり、結構大変そうだと印象でした。

7515 を諦めるという考え方もアリですが、そうしなかった理由は次の通りです：

- 1 長年放置していた 7640 がたまたま見事に復活したという事があり (実は充電電池も刃も新品同然)、充電電池の寿命 (=充電回数) を考慮すると、7515 を復活させてこれらを交互に使えば、あと 10 年は大丈夫だろうと考えられる。
- 2 現行のブラウン・シェーバーの上位機種はやはり高価 (2 万円前後)。

まず手配したのは充電電池で、Amazon のニッケル水素 1900mA 4 本組(¥798)。この時点では「充電電池は大容量のニッケル水素がいいだろう」と思い込んでいました。

次に本体を開けてみることになりますが、汚れがひどいことはともかく、分解そのものはスンナリ出来ました。

充電電池そのものは基盤に付いています。つまり電池端子のタブ端子が基盤に刺さっていて、そこで半田付けされていました。この半田付けを溶かすと充電電池はタブ端子ごとスッポリ抜けます。

このタブ端子は充電電池の端子に半田付けされているわけではなく、おそらく電気溶接されているようでした。

こちらはこのタブ端子を再利用するつもりで、電池端子から無理やりペンチで剥がしましたが、電池端子の材質はたぶんアルミで、半田付けは無理のようです。

何故ブラウンはこのような電池の収容の仕方をしたのか？ おそらくそれはスペースの狭さと振動対策のためだろうと思います。それにしてもなかなかよく出来ていると感心しました

改めてネットの充電電池交換記事を見直したところ、「タブ端子付きニッケル水素電池」を使っていることに気付きました。

これはこちらにとっては好都合、元々タブ端子付きの電池なら出来そうな気がします。

そこでまずタブ端子付きニッケル水素電池を探しましたが、なかなか見つかりません。探しているうちにタブ端子付きニカド電池というものが出来て来ました（一般的にニカド電池はニッケル水素電池に比べて容量が小さい）。

はて？ 一体どちらを使えばいいのか悩むことになりました：

ひょっとすると、この 7515 のオリジナル電池はニカド電池ではなかったのだろうか。奇跡的に？ 復活した 7640 はとても調子がいいが、復活出来た理由はニッケル水素電池ではなくニカド電池だったからではないか。7515 の充電器システムはニカド電池用なのではないだろうか。

こう考えた結果、タブ端子付きニカド電池を再購入しました（1000mAh 2 本組で¥1,040）。

次に出くわした問題は、購入した電池のタブ端子が長過ぎて、幅も広過ぎる（4mm もあったが、プリント基板の穴の幅は 2mm）ことでした。

共に「詰める」作業をしましたが、古いニッパーの切れ味は悪く、ヤスリもろくなものじゃない。正に悪戦苦闘でした。

ここからいよいよ組立作業に入ります。

電池がプリント基板に接する部分（いわば底面）に細長く切った両面テープを貼るなどして一応の恰好もつけました。

他の部分の組立については（分解と同様）スンナリとうまくいきました。

シェーバーを組み上げてから新しい電池を直接充電してみたところ、わずか5分ほどで終了。どうやら購入先が充電して出荷したようです。

更にクリーナーにセットして、クリーニング&充電の動作をチェック。無事 OK なこと確認しました。

充電後の電池電圧の測定結果：

外したオリジナル電池電圧	1. 2 9 5 V
充電後の新しいニカド電池電圧	1. 4 1 5 V

ちなみにデジカメなどに常用しているエネループ（サンヨー→松下）のニッケル水素電池の充電後電圧は1. 3 8 0 Vです。

私の場合ですが、7515にしても7640にしても1回の充電で約1カ月は持ちこたえています。これは十分満足すべき状況です。

以上